

福島第一原子力発電所 廃炉情報誌 はいろみち 第58号

Hairo Michi



「ミライミチ」特別版
廃炉の未来を担う
新入社員たち

P1-4

ALPS処理水の
海洋放出に関する取り組み

P5-6

廃炉の未来を担う 新入社員たち



未来につながる仕事に 72名の新しい仲間が加わりました

東京電力では、福島第一原子力発電所の廃炉を着実に進めるため、「福島第一廃炉推進カンパニー」を設け、廃炉作業に取り組んでいます。

今年4月、東京電力に入社した新入社員のうち、72名が福島第一原子力発電所に配属されました。入社後の約半年間、福島第一原子力発電所をはじめとする各拠点で、廃炉の現場や業務について学び、訓練やチームビルディングなど、さまざまな研修を重ねてきました。

今号では、その中から6名の新入社員にインタビュー。東京電力を志した理由や、これから挑戦したいことなど、それぞれが描く未来への想いを聞きました。廃炉の未来を担う、新たな仲間たちをご紹介します。



私たちが
廃炉の未来をつくります！



半年間の研修で、廃炉の基礎を学び、仲間とともに成長しました。

新入社員たちは、入社後約半年間、福島第一原子力発電所でさまざまな研修に参加しました。廃炉に関する知識や技術、安全を最優先にする姿勢を学ぶとともに、実習やグループワークなどを通じて、同期との絆も深めてきました。ここでは半年間の研修について振り返ります。



4月 ▶▶▶▶

- 導入研修
- 放射線防護
- 1F視察 等

5月 ▶▶▶▶▶▶

- 規律行動訓練
- 課題解決スキル
- 工学的基礎 等

6月 ▶▶▶▶▶▶

- 各部研修（現場／机上）
- 運転操作訓練
- 社外研修 等

7月 ▶▶▶▶▶▶

- Y装備着装訓練
- 基礎的知識研修
- 理解度確認試験
- 各部業務体験 等

8月 ▶▶▶▶▶▶

- 各部業務体験
- ふるまい教育
- 配属面談 等

9月 ▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶

- 緊急作業特別教育学科
- 原子力事故の事実と教訓を伝える全社員研修
- チームビルディング研修成果報告会 等

10月

配属部署にて
業務開始

座学研修



会社の概要や歴史、福島第一原子力発電所の廃炉の現状など、幅広い知識を学びました。廃炉の基礎を知り、安全への理解を深めました。

規律行動訓練



規律ある行動を通じて、安全を最優先にする意識や仲間とのチームワークを学び、一人ひとりが主体的に行動する責任感を身につけました。

課題解決スキル(発表会)



チームで課題の真因を探り、解決に向けたアクションプランを考案。経営層に向けて発表しました。

運転操作訓練



ヒューマンパフォーマンスツール (HPT) の目的や考え方を学び、設備操作を想定した訓練を通じて、安全な行動を身につけました。

機器操作訓練(社外研修)



パートナー企業で設備の操作訓練を実施。事前に学んだHPTを実践し、基本的な安全行動を身につけました。

電気J/L(社外研修)



パートナー企業でさまざまな場面を想定した実習を実施。HPTをもとに、安全を意識した基本行動を実践しました。

これらの経験を活かし、それぞれの部署で
新たな一歩を踏み出します！

それぞれの想いと
今のリアルに
迫りました

NEW GRADUATE INTERVIEW

新入社員インタビュー

1 東京電力に入社した決め手 2 研修で印象に残ったこと 3 入社前後で感じたギャップ 4 業務で挑戦

KOKORI SUZUKI

鈴木 心里

出身:福島県いわき市/専攻:商業(簿記・情報など)

- 1 福島の復興に貢献したいという思いから入社を決めました。地元福島に関わる企業の一員として、廃炉や復興を支える仕事に携わりたいと考えています。
- 2 規律行動訓練です。集団で行動する中で、周囲との連携や一つの目標に向かって取り組む大切さを学びました。今後の業務においても、周囲とのコミュニケーションを大切にしていきたいです。
- 3 入社前は、会社全体に堅い雰囲気があるイメージを持っていました。しかし、実際には同期も多く、先輩方も気さくに声をかけてくださるなど、温かく働きやすい環境だと感じています。
- 4 社員の皆さんが安心して働き、業務に集中できる環境づくりに挑戦したいです。一人ひとりが力を発揮できる職場づくりを通じて、廃炉を支えていきたいです。
- 5 廃炉や福島の復興を進めるためには、現場で働く方々が安心して業務に取り組める環境を整えることも重要だと考えています。まずは目の前の業務を一つひとつ確実に身に付け、社員を支える立場として廃炉と福島の未来に貢献していきたいです。

福島のココが好き!

「常盤もの」です。
福島の海の魅力が詰まった新鮮な魚介を、ぜひ多くの方に味わっていただきたいです。



「必ず成長し、
安心して働ける環境づくりで
廃炉を支える。」



SHOTA MATSUDUKA

松塚 翔汰

出身:福島県浪江町・いわき市/専攻:電気工学

- 1 福島の復興に自分も貢献したいと思ったことが入社を決め手です。また、高校で学んだ電気工学の知識を生かしながら、地元に関わる仕事ができることにも魅力を感じました。
- 2 危険体感訓練です。初めは指差し呼称や3wayコミュニケーションに恥ずかしさもありましたが、訓練を通じて、それぞれの行動が安全を守るために重要な意味を持つことを理解しました。
- 3 入社前は、オフィスや現場に厳しく緊張感のある雰囲気を想像していましたが、実際には、若手社員も多く、先輩方にも相談しやすい環境が整っていると感じています。
- 4 廃炉を安全かつ着実に進めるため、さまざまな業務に挑戦し、知識や経験を身につけたいです。将来は廃炉を支える人材として活躍できるよう成長していきたいです。
- 5 現在は新入社員で、まだ知識や経験は十分ではありません。しかし、廃炉はこれから数十年という長い年月をかけて進めていくものだと考えています。今のうちから積極的に知識を身に付け、将来、廃炉に貢献できる人材になれるよう努力していきたいです。

福島のココが好き!

アクアマリンふくしま、三崎公園、いわき・ら・ら・ミュウ、鶴ヶ城、さざえ堂など、魅力的な場所がたくさんあります。



「ふるさと福島への想いを胸に、
廃炉を支える技術者。」



HARUTO SUGENO

菅野 遥登

出身:福島県福島市/専攻:森林生態学・環境放射能研究

- 1 自身の経験や研究で培った知識を生かし、福島の復興に貢献できる仕事だと感じたことが入社を決め手です。震災当時に感じた不安や、福島の子どものために行動した多くの方々の姿を胸に、今度は自分が知識や経験を次の世代へつなぎ、福島の未来を支える役割を担いたいと考えています。
- 2 基礎を学ぶ期間の長さです。福島第一原子力発電所事故の背景や、社員としての心構え、放射性物質を扱うための法令など、幅広い知識を学びました。研修内容の多さは、15年以上積み重ねてきた廃炉への取り組みの重みでもあると感じています。
- 3 社員の皆さんの責任感の強さです。入社前は、社員の方々がどのような思いで廃炉に向き合っているのか気になっていました。実際に先輩社員とお話する中で、多くの方が「福島に自分は何かができるのか」を考えていることを知り、志の高さに身が引き締まる思いでした。
- 4 放射性物質の分析業務に携わりたいです。データだけでなく、対話を通じて相手のニーズを理解し、研究で培った分析技術と、人との対話を大切にしながら、廃炉に必要な情報を支えられる存在になりたいです。
- 5 私たち新入社員の世代は、子どもの立場から福島第一原子力発電所事故を経験した世代です。当時感じたことや経験を次の世代へつないでいくことが、私たちの役割だと考えています。当時追いかけていたのは野生動物でしたが、今追いかけているのは福島の未来です。過去から学び、未来へつなぐ一員として貢献していきたいです。

福島のココが好き!

小鳥の森や野生動物共生センターです。
自然に触れながら環境について学べる場所です。



「震災を経験した世代として、
福島の子どもの未来を、
次世代へつなぐ。」



MUTSUMI HINOMOTO

日本 睦実

出身:茨城県つくば市/専攻:建築学

- 1 人々の生活に近い仕事に携わりたいという思いから、インフラ分野を志望していました。また、福島の復興に関心があり、両方に関われる仕事として東京電力に魅力を感じました。インターンシップで福島第一原子力発電所を訪れた際の職場の雰囲気や、社員の皆さんの仕事への向き合い方が印象に残り、入社を決めました。
- 2 業務体験です。実際の仕事を知ることや、現場で大切にすべきことや、先輩社員の仕事への姿勢を学ぶことができました。
- 3 原子力に関する教育や研修が多く、責任の大きさを実感しました。一方で、先輩や同期には気さくな方が多く、相談しやすい環境だと感じています。
- 4 建築技術者として知識と経験を積み、廃炉に必要な施設や作業環境の整備を通じて、共に働く社員やパートナー企業の方々から信頼される技術者になることが目標です。現場で働く方々の声を丁寧に聞き取り、それぞれのニーズを設計や環境改善に反映できるようになりたいと考えています。また、多様な要望や制約条件がある中でも、粘り強く課題に向き合い、関係者にとって最適な解決策を見いだせる技術者を目指したいです。
- 5 まずは目の前の業務を一つひとつ丁寧に、社会人として信頼していただける働き方を心掛けていきたいです。その上で、建築技術者として専門性を高めつつ、将来的には地域の方々の声にも耳を傾けながら、廃炉の前進と福島の復興の両方に貢献できる人材へ成長していきたいです。

福島のココが好き!

富岡港です。海や夕空の景色に癒やされています。
また、「四季と果実 よしとみや」のかき氷もおすすです。



「建築の力で廃炉を支え、
福島の子どもの未来に
つなげる仕事。」





AMI UEDA

上田 碧海

出身:佐賀県伊万里市/専攻:電気電子工学

1 インターンシップで出会った社員の皆さんが、仕事に情熱と誇りを持って取り組んでいる姿が印象に残りました。「このような方々と一緒に働きたい」「自分もそうになりたい」と感じたことが入社を決め手です。

2 各部の業務体験です。実際の仕事や職場の雰囲気をすることで、将来働く姿を具体的にイメージできました。特に、業務体験で関わってくださった先輩方が温かく迎えてくださったことが印象に残っています。先輩方の姿を見て、配属後の期待もさらに高まりました。

3 九州出身ということもあり、食堂の味付けにギャップを感じました。高専時代の食事よりもおいしく感じ、午後からの仕事への活力になっています。

4 電気系の部門で経験を積み、将来的には新しい電気設備を建設する仕事にも携わりたいです。そして後輩に「この設備は自分が担当した」と伝えられる技術者を目指します。

5 福島復興に向けて地域イベントへの参加や福島で生活する中での経済への貢献も、東京電力社員として大切な役割の一つだと考えています。廃炉を着実に進めるため一つひとつの業務に責任を持って取り組み、知識や経験を積み重ねながら福島の未来を支える一員へ成長していきたいです。

福島のココが好き!

福島の「空」。
雄大で表情豊かな空、
特に仕事終わりに見る夕焼けがお気に入りです。



憧れの先輩方のような技術者へ
福島の未来を支える存在に

YUKI MORI

森 悠貴

出身:東京都江東区/専攻:機械工学(流体力学)

1 幼い頃、福島第一原子力発電所の広報として地域の皆さまと向き合う父の姿を見て、インフラを支える仕事の責任と意義を感じてきました。廃炉という世界的な挑戦に携わり、福島の復興と日本のエネルギーの未来に貢献したいと考え、入社を決めました。

2 72名が参加した集団行動研修で、全体のリーダーを務めたことです。周囲への声かけや対話を大切に、チーム全体で目標に向かうことの重要性を学びました。また、課題解決型の研修では、目標共有や役割分担の大切さを実感しました。

3 パートナー企業の皆さまと一体となって廃炉に取り組む「OneTeam」の姿勢です。廃炉はデブリ取り出しだけでなく、汚染水・処理水対策や燃料取り出し、廃棄物対策など、多くの取り組みが連携して進められていることを知り、その規模と難しさを実感しました。

4 まずは現場で経験を積み、工事監理員としてパートナー企業の皆さまと積極的にコミュニケーションを図りながら、正しく状況を把握する力を身につけたいです。将来的には、デブリ取り出しや廃棄物処理などにも携わり、廃炉の実態を地域の皆さまに正しく伝えられる技術者を目指します。

5 入社直後の新入社員代表インタビューで、「デブリ取り出しを通じて福島の廃炉貫徹に貢献したい」と決意を表明しました。その言葉を目標で終わらせず、日々の業務で行動に示し、安全かつ着実な廃炉の完遂に貢献していきたいです。

福島のココが好き!

三春滝桜、小名浜ウロコジウの
海鮮料理がおすすめです。



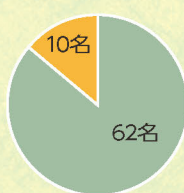
父から受け継いだ
想いを胸に
廃炉を支える人財へ



これからも、
ともに歩んでまいります。

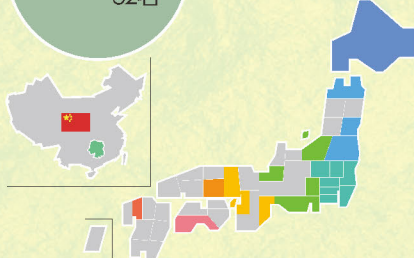
新入社員DATA

男女比



女性:10名
男性:62名

出身地



北海道.....1	千葉県.....3	三重県.....1
青森県.....2	東京都.....6	大阪府.....3
宮城県.....2	神奈川県.....5	兵庫県.....1
福島県.....20	新潟県.....1	岡山県.....1
茨城県.....5	福井県.....1	高知県.....1
栃木県.....3	山梨県.....1	佐賀県.....1
群馬県.....2	静岡県.....3	中国湖南省.....1
埼玉県.....5	愛知県.....3	

新入社員インタビュー 番外編 休日の過ごし方は?

- バドミントンで体を動かしたり、毎週末家に帰って家族との時間を過ごしたりしています。(鈴木)
- 実家で家族と過ごしたり、地元の友人とドライブやカラオケに行っています。(松塚)
- 東京へ出かけたり、趣味を楽しみながら家でゆっくり過ごしたりしています。同期との交流も大切にしています。(上田)
- 研究所で分析をしたり、山で野生動物の調査をしたりしています。(菅野)
- 同期とバドミントンや、百人一首をしています。(日本)
- 同期とサウナやゴルフを楽しみ、仕事終わりには筋トレやランニングをしています。(森)



ALPS処理水の 海洋放出に関する 取り組み

2023年8月からALPS処理水の海洋放出が始まり、これまで、計画に基づき、安全を確認しながら放出を行ってきました。

地震や大雨、台風などの自然現象や設備の不具合などが起こる可能性があります。

そうした場合にも安全を確保できるよう、計画的に放出を止める仕組みや、異常を検知して自動で止める仕組みを整えています。

今回は、ALPS処理水の放出を「停止」するとき、どのような仕組みが働くのかをご紹介します。

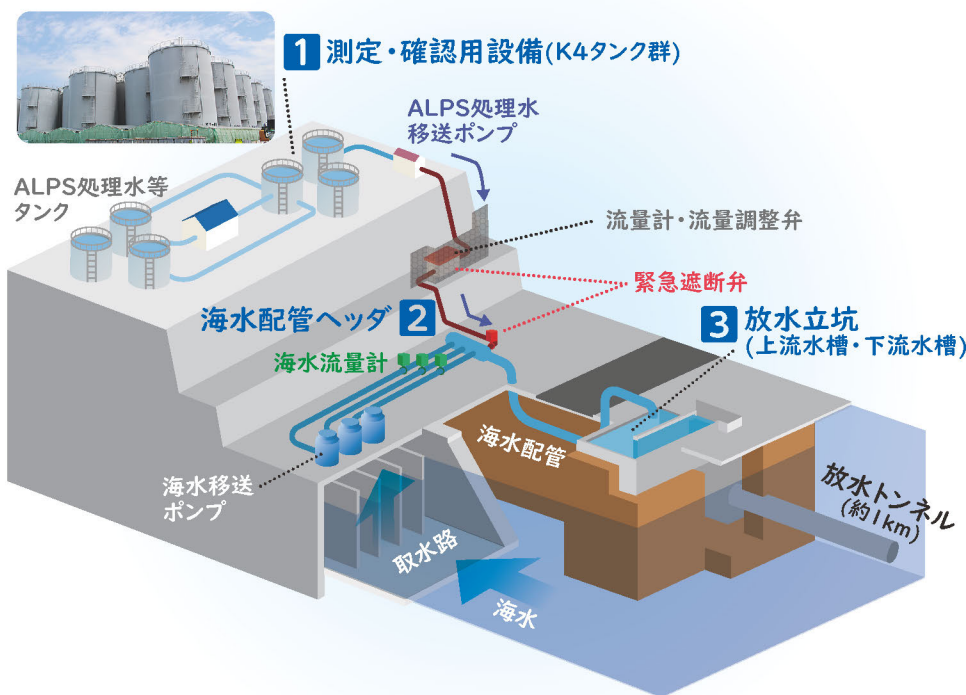
海洋放出の手順

汚染水から
62種類の放射性物質を
ALPSなどで除去します。

1 測定・確認用のK4タンク群でALPS処理水を受け入れ、循環・かくはんした上で測定します。トリチウム以外の放射性物質濃度が放出基準内であることを確認し、ALPS処理水を移送ポンプで送ります。

2 配管ヘッダで海水と混合し、放出時のトリチウム濃度が上限とされる1,500ベクレル/リットル未満となるよう十分に希釈します。

3 希釈したALPS処理水は放水立坑(上流水槽・下流水槽)へ送られ放水トンネル(約1km)を通して海へ放出されます。



これまでの放出実績と2026年度の計画

ALPS処理水等の貯蔵量は

海洋放出前 (2023年8月) から

8%減少

海洋放出開始前

1,336,502m³ → 1,228,895m³

*水位計の測定下限値からタンク底部までの水を含んだ貯蔵量

ALPS処理水等の低減状況の詳細は
右の二次元コードからご覧ください



年 度(放出回数)	累計処理水 放出量	累計放出 トリチウム総量
2023年度(計4回)	31,145m ³	約4.5兆ベクレル
2024年度(計7回)	54,999m ³	約12.7兆ベクレル
2025年度(計7回)	55,011m ³	約16.0兆ベクレル
2026年度(計8回) 【予定】	約62,400m ³ 【予定】	約11.2兆ベクレル 【予定】

2026年度第5回目[通算23回]の海洋放出を完了しました
(2026年9月18日時点)

※トリチウム濃度は海水で700倍以上に希釈することで1,500ベクレル/リットル未満にします。※トリチウム総量は移送元タンク群での分析値と測定・確認用タンク群での分析値の違いによる影響等のため、計画値と実績値に若干の違いが生じる場合があります。



海域モニタリングにおける発電所から3km以内のトリチウム濃度は、
運用上の指標(放出停止判断レベル:700ベクレル/リットル)を大きく下回る結果となっています。

海洋放出を安全に進めるための「停止」の仕組み

災害等によるトラブルを未然に防ぐため計画的に止める「手動停止」と、異常を瞬時に検知し止める「自動停止」という、二つの停止の仕組みを安全のために設けています。

手動停止(計画)

当直長が確認・判断し
放出を停止

- ALPS処理水に影響を及ぼす可能性のある自然現象に対して



地震
震度5弱以上



津波
注意報



竜巻
注意情報



高潮
危険警報

- 海域モニタリングで異常値が検出された場合
- その他、当直長や運転員により停止が必要と判断した場合

自動停止(緊急)

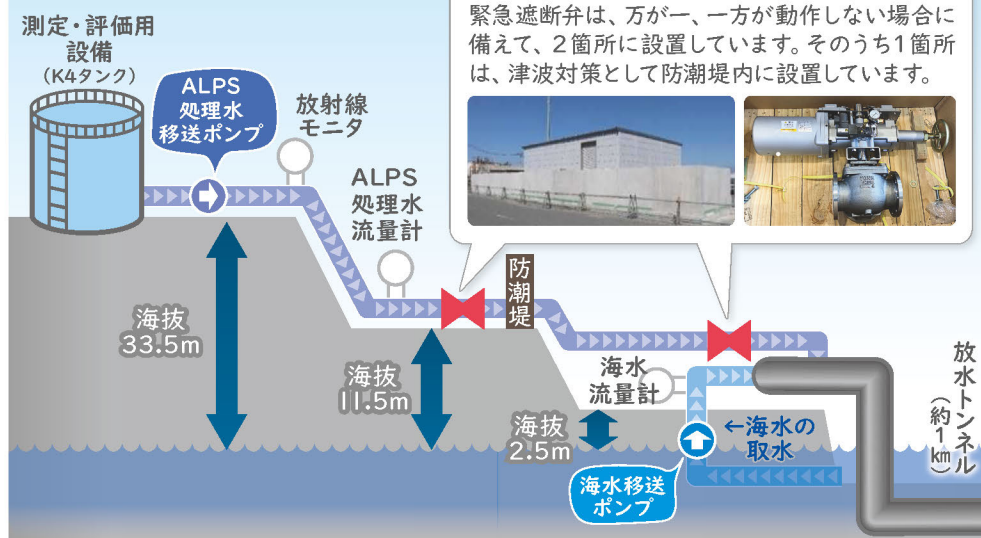
自動で機械的に
放出を停止

- ALPS処理水や海水流量の異常
- 移送ポンプのトリップ
- 放射線モニタからの警報 など

緊急遮断弁が閉まります▶



各設備の配置



緊急遮断弁

緊急遮断弁は、万が一、一方が動作しない場合に備えて、2箇所に設置しています。そのうち1箇所は、津波対策として防潮堤内に設置しています。



これまでの放出停止実績

(2026年9月28日時点)

手動停止 4回

- 2024年3月15日
福島県沖を震源とする地震(震度5弱)
- 2025年7月21日
大熊町、双葉町での
竜巻発生確度II発令
- 2025年7月30日
カムチャツカ半島付近の
地震による津波注意報
- 2025年12月8日
青森県東方沖地震による津波注意報

自動停止 3回

- 2024年4月24日
所内電源A系トリップ
- 2026年6月10日
測定確認用タンクB群
「移送工程異常」警報発生
- 2026年6月13日
測定確認用タンクB群
「移送工程異常」警報発生

停止後は、設備・運転状況に異常がないか、操作手順に問題がないか、
海域モニタリングの結果が指標(放出停止判断レベル)を下回っているかを確認したうえで、
放出再開をお知らせし放出を再開します。

担当者インタビュー

Q. 現場では、どんなことに気を付けていますか？

A. ALPS処理水の放出工程の合間を縫って、設備の点検を行っています。限られた時間の中でも確実に点検を終えられるよう、事前に点検内容や作業工程を綿密に調整し、手戻りや時間のロスを減らすための準備を進めています。

福島第二原子力発電所
水処理センター
貯留設備グループ

佐藤 陽平

平井 英之

Q. 多くの人が関わる中で、どのように連携していますか？

A. ALPS処理水の移送は、現在、24時間体制での対応に向けた取り組みを進めています。運転や保全だけでなく、約20社のパートナー企業を含む多くの関係者との連携が欠かせません。現場での課題や気づきを共有し、それぞれの立場や役割を超えて、OneTeamとして取り組んでいます。

Q. 今後、どのようなことを大切にしていきたいですか？

A. 長期的な運用を見据え、設備の点検・保守に加え、経年劣化を考慮した設備更新などを適切に行い、安全で安定した運用を維持していきたいです。関係者がそれぞれの経験や知恵を出し合い、試行錯誤を重ねながら、より良い設備のあり方を模索していきます。

東京電力は、
ALPS処理水の
放出状況や周辺海域での
モニタリング結果など
「処理水のいま」を
ホームページで発信
しています。

処理水 ポータル サイト

INFORMATION PORTAL SITE



二次元コードを
スマートフォン等で
読み込んでください

廃炉作業の一環であるALPS処理水等に関する取組みについて、正確な情報をいち早くお伝えし、広く社会のみなさまにご理解いただけるよう努めてまいります。

コミュニケーション イベント参加

福島第一原子力発電所では、地域のイベントなどへ「廃炉の今」をお伝えするブース展示を実施しています。展示ブースでは、2号機原子炉建屋の模型展示や大型モニターによる動画放映などを行い、来場者の方々とコミュニケーション活動を展開しています。

青少年のための科学の祭典 2026全国大会

東京都・科学技術館／7月25日(土)～7月26日(日)



コミュタン福島

福島県田村郡三春町／
8月8日(土)～9日(日)

皆さまからお寄せ いただいた声

■科学技術館 ■コミュタン福島

東京・北の丸公園にある科学技術館で開催された「青少年のための科学の祭典」と、福島県のコミュタン福島で開催されたイベントに、廃炉に関するブース出展をしました。

「ふわふわボンテンで分子模型をつくらう」の工作や、ロボットアームの操作体験、展示を通じて、ALPS処理水やトリチウム、福島第一原子力発電所の廃炉の状況について、お子さま方や保護者の方に分かりやすくお伝えする活動を行いました。



ふわふわの原子を
組み合わせて分子を作成

■トリチウムは危険な放射性物質だという認識がなかったため、ボンテンを使った分子作りを通して親子で理解を深めることができた。

■分子模型を通してトリチウムの性質やALPS処理水についての理解が進められた。福島第一原発についてもっと知りたいと思った。

■ロボットアームの操作を子供が楽しんでいた。廃炉はまだ道程が長いと改めて感じた。

■テレビで聞いたことがあるトリチウムが何かも知らなかったため、勉強になりました。

■模型を実際を作ることで、トリチウムが体中で吸収されないことがよくわかった。

■目で見てわかりやすくて、これから理科で学習する子供たちにとってすごく良かった。



アーム型アクセス
装置の模型
(ロボットアーム模型)



なつ祭り in おおくま2026 福島県双葉郡大熊町／9月5日(土)

9月5日(土)、大熊町役場で「なつ祭りinおおくま2026」が開催されました。天候にも恵まれ、子どもから大人まで多くの来場者で賑わいました。

東京電力のブースでは、放射線〇×クイズや福島第一原子力発電所2号機原子炉建屋の模型展示、浜通り13市町村のステッカープレゼントなどを行い、たくさんの方に楽しんでいただきました。



東京電力では、イベントやご視察などの機会を通じて、地域のみなさまに直接ご意見を伺う活動を実施しています。また本誌配付版に付属しているハガキでもご意見をお寄せいただけると幸いです。

視察・座談会 のご案内



福島第一原子力発電所では、廃炉の状況をご視察いただく、視察・座談会を開催しています。バスで構内を回りながら、発電所の現在をご案内します。参加をご希望の方は、右の2次元コードから申込書をダウンロードしメールで送付いただくか、下記までお問い合わせいただき、案内資料・申込書をお取り寄せの上、お申込みください。



ご参加にはお申込み条件があります。詳しくは、2次元コードよりご確認ください ▲

東京電力 廃炉資料館内 東双ファシリティ&サービス株式会社視察事業部 視察第一グループ

TEL:080-5555-7988【電話受付:平日9時～17時(土日祝日を除く)】

FAX:0240-30-1140 E-mail:1fshisatsuzadankai@tepcoco.jp

今回の表紙



福島第一原子力発電所の構内にある大型休憩所の屋上から、夕焼けに染まる発電所の様子を撮影しました。約3,500人～4,500人の作業員が働く現場では、今日も一歩ずつ着実に廃炉作業が進められています。



この印刷物は、復興支援の一環として、福島県の印刷会社に、デザイン制作および製造を依頼し発行したものです。



「デブリポータルサイト」
各号機の燃料デブリに関する最新
情報や過去の取り組み等の解説



「処理水ポータルサイト」
ALPS処理水等に関する情報を
5か国語で公開



「福島第一原子力
発電所は、今」
～廃炉作業は新たなステージへ～



「はいろみち」
バックナンバーが
ご覧いただけます

